

教科等研究会（中学校道德部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ 自己の生き方についての考えを深める道德科授業の創造

2 研究経過

	期 日	場 所	内 容
第1回	6月12日(月)	滝尾小学校	○前年度の研究のまとめの紹介 ○研究テーマ協議、研究計画、研究組織づくり等 ○県大会に向けての授業づくりについて
第2回	10月23日(月)	龍野小学校	○研究授業及び授業研究会 教材名:「ブランコ乗りとピエロ」 (「生きる力6」日本文教出版) 内容項目: B(11)相互理解、寛容 授業者: 甲佐町立龍野小学校 第6学年 教諭 大野なつき
第3回	12月 8日(金)	益城中学校	○研究授業及び授業研究会 教材名:「靴」 (「新しい道德1」東京書籍) 内容項目: C(14)家族愛、家庭生活の充実 授業者: 益城町立益城中学校 第1学年 教諭 白石 慶太
第4回	2月 6日(火)	飯野小学校	○研究授業及び授業研究会 教材名:「おおひとやま」 (「生きる力1」日本文教出版) 内容項目: C(12)規則の尊重 授業者: 益城町立飯野小学校 第1学年 教諭 木原 育実

3 研究の概要

(1) 研究の内容

上益城郡教科等研究会全体テーマ『児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり』を受け、昨年度に引き続き、研究テーマを「自己を見つめ 自己の生き方についての考えを深める道德科授業の創造」に設定した。

学習指導要領解説には、「自己を見つめる」とは、中学校段階では、様々な道德的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省することであると書かれている。

また、中学生の時期は、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期で、人間にとっての最大の関心は、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかということにあり、生徒が人間としての生き方について考えを深められるように様々な指導方法の工夫をしていく必要があるとも書かれている。

来年度は、熊本県道德教育研修大会が上益城で開催される。そこで、県大会のテーマも意識しながら小学校、中学校が共通して実践できるようなテーマにしたほうがよいという意見にまとめ、上記の研究テーマのもと、研究を進めていくことになった。

(2) 成果と課題

① 成果

今年度は、毎回、小・中合同での授業研究会を実施し、「ねらいに迫る学習展開の工夫」や「児童・生徒が主体的に考え、他者と共に学び合う授業づくりの工夫」を柱として協議を行った。

会員からは、「中学校(小学校)の道德の授業を参観することは殆どないので、発達段階に応じた道德の授業づくりについて考えるよい機会となった」「事前アンケートの活用方法や生徒の思いを引き出す発問の工夫について、小・中それぞれの実践を出し合いながら協議ができ、授業づくりへ生かしたいと思った」等の感想が出され、充実した研究会となった。

②課題

各学校で生徒の実態は違うが、研究を始める前と研究後に、研究テーマに関するアンケートや意識調査をしておくことで研究の成果と課題が明確になったのではないかと反省した。

研究授業を行うにあたって、各学校で事前授業を行ってもらったことで、事前授業の流れや生徒の反応を参考に授業展開の工夫を行うことはできた。しかし、会員全員での事前研究会を実施することができなかつたため、細かい練り上げができなかつた。

4 実践事例

(1) 授業の概要

今回の教材「靴」は、外靴の紛失をめぐって、両親に心配をさせまいと気遣う主人公と深い愛情をもって見守る両親とのやりとりから、自分だったら家の人にどう話すかを考えることで、生徒の家族への思いを考えさせることができる教材である。

授業においては、タマゴマンと父の思いについて、2グループに分けて考えさせる展開で、グループでの話し合い活動が活発に行われていた。展開後半には、教師自身の家族とのかかわりに関するエピソードを話されたことで、生徒が家族とのかかわりについて振り返ることができていた。

(2) 学習構想案 (授業者 益城町立益城中学校 教諭 白石 慶太)

1 学習構想

主題名	家族の思いにふれて (内容項目 C-14):家族愛, 家庭生活の充実) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	
ねらいと教材	(1)ねらい 外靴の紛失で親に心配をかけまいとする主人公と、どんなことがあっても主人公の味方として支えようとする親の姿を通して、家族の深い愛情に気づくとともに、家族の一員として果たすべき役割や責任を理解し、より充実した家庭生活を築こうとする意欲や態度を育てる。 (2)教材名 「靴」 出典:新訂「新しい道徳1」(東京書籍)	
評価の視点	評価の視点 1 (本時)	評価の視点 2 (本時)
	○子の立場と親の立場について考え意見を共有することを通して、より充実した家庭生活について多面的・多角的に考えている。	○より充実した家庭生活のために、家族とのこれまでの関わりや、これからの関りなどを、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。
目指す生徒の姿		
父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする生徒		
主題に迫る学習課題		本主題で働かせる見方・考え方
「家族とのかかわりについて考えを深めよう」		家族の思いや、より充実した家庭生活について、広い視野から多面的・多角的に捉え、家族の一員としての生き方について考えること。
内容項目相互の関連的・発展的な指導, 各教科等や体験活動等との関連的指導		
各教科等	道徳科	日常生活
各教科の学習活動 授業において、全員が全ての授業に向き合える土台作り(支持的風土)。	「靴」 C-14:家族愛、家庭生活の充実 主題名 家族の思いにふれて	キャリア教育「基礎的・汎用的能力の育成」 自己理解・自己管理能力, 課題対応能力を育成する。 授業参観、学活 家庭とのつながりを、生徒が感じられる行事を通して、家庭生活の充実を図る。

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所	
中学校学習指導要領「特別の教科 道徳」内容項目 C 主として集団や社会との関わりに関すること (14) 家族愛、家庭生活の充実 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	
本主題における系統（横軸は当該学年でのつながり，縦軸は他学年とのつながり） （省略）	
生徒の実態	
■学習するにあたっての学級及び生徒の様子 男女間の隔たりは少なく、多くの生徒が自らの考えを全体に向けて発表することができる。また、他生徒の意見を聞く姿勢も良く、意見を聞いた後に、よく反応をしている。反面、突発的に自分の意見の発表をしたがる生徒も中にはいるため、話合いや共有ではまとめが必要である。また、なかなか自分の意見を全体に発表することが難しい生徒も少数ながらいるので、班での話し合いなどで、発表できる環境づくりが不可欠である。	
■学習に関する意識の状況 本主題に関わる生徒の実態（アンケート 29人調査）	
質問事項	回答
①あなたは普段自分の家族とどんなことを話しますか。	学校でのこと……………27人 部活や習い事のこと……………14人 趣味のこと……………6人 相談……………2人 あまり話さない……………2人
②あなたは家族のことをどんな存在だと思っていますか。	とても大切な存在……………10人 身近な存在、頼りになる……………8人 当たり前存在……………8人 無回答……………3人
■考察 アンケートから、学校でのことを家族と話している生徒が27人と多かった。複数回答している生徒も18人おり、中には親に相談事をしている生徒も2人いた。このアンケート結果は家族から話しかけられて、学校のことを話す生徒と、自発的に自らのことを積極的に話す生徒が混在していると考えられる。自発的に話す生徒は相談事、趣味の話など自分のしたい話を家族に話すと考えられるが、学校や部活のことなどは聞かれてから話す生徒も少なからず存在するのではないかと考えられる。そのため、内在的に「あまり話さない」傾向に近い生徒も少なからずいると予想できる。また、家族のことをどう思っているかについて、とても大切な存在や頼りになる存在と記入していた生徒が計18人いる一方で、当たり前の存在と感じている生徒も8人おり、自身が持つ、あるいは家族から注がれている家族愛に気づいていない可能性がある生徒もいることが分かった。授業の中では、家族からの言葉掛けに注目して、そこに込められている家族からの思いに、生徒が気づけるようにしたい。	
教材の価値	
本時の教材「靴」は、外靴が学校で行方不明になり、上履きで帰宅するタマゴマンと両親に焦点を当てた教材である。タマゴマンは事の詳細を両親に話すことで、両親を不安にさせまいと気遣う一方で、両親も事の詳細を問い詰めることをしないで、信じて見守ることにする。親と子、お互いの深い思いを感じられる教材で、生徒の家族への思いを考えさせることができる。	

3 指導に当たっての留意点

(1) 自分事として考える導入の工夫

事前に行ったアンケートを活用して、生徒の意見をよりよく引き出して、話し合いを活性化させる。

(2) 問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

登場人物のセリフに対して、分析的な発問を行い、登場人物の心情をより考えられるようにする。

(3) 主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫

教師は話し合いの中で生徒とかわり、より深い思いに生徒が気づけるように促す。

(4) 自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

生徒が自分自身の家族への思いを深められるように、教師が自ら家族への思いを語る。

4 本時の学習

(1) ねらい

外靴の紛失で親に心配をかけまいとする主人公と、どんなことがあっても主人公の味方として支えようとする親の姿を通して、家族の深い愛情に気づくとともに、家族の一員として果たすべき役割や責任を理解し、より充実した家庭生活を築こうとする意欲や態度を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 日ごろの家族との関わりを振り返る。 ○最近家族とどんなにかかわりをしていますか ◇よくしゃべっている ◇あんまりかかわっていない ◇よく怒られる ◇関わってほしくない	・互いの経験を出し合い、他の生徒の経験にも耳を傾けるようにする。 ・事前アンケートを提示し、どのように考えているのか共有し合う。
展開	40分	2 教材を読み、話し合う。 ○教師の範読を聞く。 ○教材のあらすじをつかむ。 ○ペアで感想を共有し、発表する。 ○Aグループ、Bグループに分かれ、タマゴマンと父親の思いについて考える。 ① 個人で考える ② 班で意見を共有する ③ 全体に発表する A「ちょっと今日、学校に靴を置き忘れちゃって。上履きで帰ってきたんだ。」なんで、タマゴマンはお父さんに素直に言えなかったのか。 ◇心配をかけたくないから本当のことを言わなかったのではないか。 ◇真実を伝えたとき、家族が動揺すると思ったから。 B「何があっても味方」お父さんの言葉に込められた思いは何だろう。 ◇何があっても自分が守るといふ思い ◇何かあったら相談してほしい ◇タマゴマンのことを心配している気持ち ◎2つの立場の共通の思いは何だろう ◇家族を思いやる気持ち ◇互いを思う気持ち 3 自分自身の家族との関わり方、今までとこれからを見つめる。 ○教師の説話を聞く。 ○自分自身の家族とのかかわりをもう一度振り返り、これまでとこれからの家族とのあり方を考える。 ○振り返ったことを発表する。	・ゆっくりはつきり読む。 ・読んだ後の気持ちを大切に、共有し合いその後の活動に続いていくように気持ちを高める。 ・それぞれグループで分けることで、お互い考える部分を簡潔に、考えやすくする。 ・父の思いを考えるグループは、自分たちの立場とはまた違うところになるため、机間指導の中で支援を行う。 ・この共通の思いは、家族だからこそ持てる思いであるということをおさえる。 ・この教材を通して、自分たちの家族の暮らしに思いを向けて、自分のことを振り返るようにする。
終末	5分	4 本時のまとめをする。 ○今日の学習を終えて、感想を記入する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【期待される学びの姿】 班での話し合いの中で、それぞれの考え方に共感することで多面的・多角的に主題について考え、家族とのかかわりを考えている姿。</p> </div>

【評価の視点1】 タマゴマンの思いと父親の思いを、互いの立場を考えることを通して、家族同士が持つそれぞれの思いについて多面的・多角的に考えている。(方法：発言・ノート)

【評価の視点2】 今までの家族との関わり方や今後の家族との関わりについて授業全体を通して考えたことを、自分自身の経験と重ね合わせながら発言したり書いたりしている。(方法：発言・ノート)